

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	他の施設には無い圧倒的なアットホーム感がたんぼぼの魅力と考える。利用者はもちろんのこと職員までもが、自分の家の様に生活する事を目指している。理念である「私たちは、自分の親を見てもらいたい施設を目指します」を職員一人一人が共有できるように努めている。	玄関と共有スペースに理念を掲示し、職員会議で理念を噛み砕いて説明している。また、「一緒に生活している」と言う思いを職員に伝え、関わっている以上はパートナーとして共に成長することを日常業務の中で、管理者が先頭に立ち実践することで、理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学生の清掃ボランティアや見学交流尉問、招かれて授業の一環として組み込まれる「たんぼぼ福祉学習」等は併設の学童施設との合同企画を通しての地域交流であり、たんぼぼの特色となっている。	学童保育等、広く知ってもらうために看板を設置している。また、年2回、職員と利用者で地域のゴミ拾いをしたり、公民館でのコンサートに招待されて行くこともある。学童保育を通じて、小学校の体験学習や中学校の職場体験等を受け入れている。呼ばれて行くだけではなく、自分達から地域に溶け込む努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所増設により、グループホーム・小規模多機能の存在やどんな事業所なのかが、地域の人には知られるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	複数の地区自治会長・家族・小学校長・主任児童委員・学童保育役員、市町村担当者・地域包括の職員等が出席して、定期的に運営推進会議を行っている。時にはたんぼぼ行事と同時開催する等工夫して、より深くたんぼぼを理解してもらえるよう働き掛けている。	地域の方や家族、小学校長など、大勢参加し、2か月に1回開催している。市町村担当者から情報を得て、今年度から市の相談員を2か月に1回受け入れている。地域の資源を上手に活用し、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればその都度市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。運営推進会議出席を依頼し、必要に応じてオブザーバーとして出席してもらっている。市の要望で学童保育を取り入れ、災害時避難場として受け入れ申請する等、協力関係ができています。	2ヶ月に一回行われる市町村主催の連絡協議会や、CM協議会に積極的に参加している。協議会の中で行われる研修会(口腔ケア、感染症等)や勉強会にも参加している。また、更新申請等で毎月足を運んでおり、密な連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束や、安全を基本に身体拘束をしない支援等についての具体的なマニュアルを作って、職員に周知徹底を図っている。ケアの中での気付きはその都度話し合い、認識を共有している。	拘束に関わるマニュアルを整備し、職員会議の中で周知を図っている。ベッド柵等、拘束にあたる場合は、必ず家族に確認・同意を得て、対応している。外部研修には管理職が主で参加しており、持ち帰って必ず報告している。研修会等で得た資料を基に、拘束について勉強する機会を徐々に増やしている。	外部研修への職員の参加、内部研修の更なる取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という言葉は範囲が広く言葉や暴力、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いができるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、成年後見人制度を活用された入居者の家族もいた為、会議等で話せる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程・重要事項は、見学に来られた際に説明を行うように努力している。規程内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を伝える個別報告書を毎月家族に送り、忘年会や日帰り旅行等家族参加行事も企画して、情報提供・家族同士の交流を促進している。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供出来ている。	助け合い精神のもと「お互い様」を口癖に、利用者に変化があれば、必ず家族に電話連絡している。家族忘年会を開催しており、家族が参加できる会を前向きに計画し、本音でも言い合える環境・雰囲気作りを整備している。利用者には、じっくりと話ができる機会を設けている。直接、職員に意見等を述べる利用者に対しては、前向きにとらえ検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。	ミーティングや会議では、なかなか意見が出にくい状況だったが、何もなくても「何も無い」と発言をするように指導していき、職員が意見を言える環境を作っている。職員の休み希望も特に制限を設けておらず、利用者や家族と同様、「お互い様」精神で頑張っている。また、年に1回の契約時に個人面談を実施し、意見や要望を聞いている。業務命令で職員を縛る等、一方通行にならない様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議を月1回設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他県及び県内のGHとの交流等積極的に話しができる環境を構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、家族と連絡及び面会時に話しを行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたり、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族を含めた忘年会や旅行を行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるように働きかけている。GHだけの生活ではなく家族との時間も大切にしていけたらと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・職員共に過半数が地元出身者なので、互いに地域の屋号で話を通じる。地元の夏祭りの踊りに利用者と一緒に参加したり、本人が行った事のある神社に個別の初詣をする等、昔からの馴染みを大切に支援を心掛けている。	地域の馴染みの方から年賀状が届くこともある。また、地域内の友人が遊びにきたり、友達のお宅に1時間ほど遊びに行ったり、馴染みの美容院へ行ったりする等、昔からの関係を継続できる様、個別に柔軟な対応をしている。携帯電話で個人的にやりとりしている利用者もあり、発信等で職員が手助けすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるよう支援している。入居者同士がけんかになった場合は職員が間に入り、和解できるよう支援している。GHと小規模の利用者交流も多くある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、担当職員やケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方は個々に違うためそれを尊重していくようしている。困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。	意見を言える利用者には、普段の会話の中から行きたい場所や、やりたいことなどを聞いている。意見を言うのが困難な利用者には、家族から意見を聞き、利用者にとっての最善は何かを考え、対応している。利用者と家族の意向が相違する場合でも、利用者の意見が優先できるよう間に入り、お互いが納得できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や日報、申し送りにより一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から計画作成担当者と担当職員が良く話を聞いて、情報を全職員に伝えてプランを作成し、全員で様子を見ながら検討している。何かあればその都度、定期的には半年に一度プランを見直し、現状に即して検証している。	状態変化があれば随時、無ければ半年に1度、介護計画を見直している。家族の面会を中心に電話などで、利用者や家族から意見を聞いているが、利用者からの意見は少ない。今後、担当制を導入したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できるようにしている。業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応出来る限りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHと小規模と放課後児童クラブがあり、子供たちの遊ぶ声や走り回る姿を見ることで心身的に落ち着かれる場合もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、家族が困難な場合はホームでも支援しており、2週間に一度主治医の往診もあるので、それぞれのかかりつけ医との関係は構築できている。歯科や内科等、ホームの協力医も確保できている。	2週間に一度、協力医療機関から往診があり、休日や夜間にも電話等で対応してもらえ関係づくりができています。利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続しており、受診については原則、家族にお願いしているが、困難な場合は、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師と連絡を取り、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、かかりつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・往診に来てくれる主治医と、ターミナルに向けた話し合いをして、スムーズに対応できた事例もある。本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、医師や家族の協力を得られるならば、職員とも良く話し合っ、ホームとして出来る限りの支援をしたいと考えている。	入居前には必ず同意書を書いているが、重度化した場合はその都度、家族や利用者との今後の支援について話し合っている。家族の意向により実際、看取りをした経験もあり、協力医療機関との連携も図れている。職員の不安解消のためにも、勉強会や指針、マニュアルの整備を進めていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管しいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。	消防署の協力の下、年2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。消火設備等の点検や消火器の使い方指導されている。	備蓄食料や地域との協力関係づくり、地域を含めた災害時の連絡網の整備に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、言葉掛けやケアの対応について話し合いを行っている。ケアマニュアルを作成している。	入浴は介助浴・自立浴とに分かれており、同時に使用することが多いので、カーテンで仕切り、お互いのプライベートに配慮している。また、同性介護を希望する利用者には、同性で対応している。トイレ介助は、トイレ内で待機せず、扉を閉めて外で待機している。利用者の立場に立ち、自尊心を傷つけない声かけや介助に取り組んでいる。	利用者と職員の間関係が良すぎるあまり、他の利用者のことを話したり、関係性を重視するあまり、声かけの言葉を崩し過ぎている様子が伺えるので、接遇研修などで改善することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を模索していくようにする。家族の方にも支援していただけるように相談や話し合いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常にできるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせミキサー食等、食べやすいよう配慮し、介助の必要な人の傍らには職員が付いて、皆で談笑しながら食事している。食事班の職員を配して、旬の食材を活かした美味しい食事提供に努め、食事は皆の楽しみになっている。	食事は、食材会社のメニューに沿って手作りしている。木曜と日曜の朝はパンの日と決めており、必ずスープや味噌汁等を提供している。誕生日には、利用者の食べたい物を提供している。利用者と一緒におやつ作りを一緒に行うこともある。地方の郷土料理や、麺料理を提供したり、お弁当を持参して外で食べることもある。職員と利用者が会話を楽しみながら支援できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。失禁が減ったり、パット使用の人が、無くて大丈夫になる等、改善事例も多い。	不安でパットを使用していた方もいたが、定期的な誘導により、パットが不要になった事例もある。排泄パターンを確認し、大きいパットに頼ることがないよう、家族の立場でケアするよう心掛けている。日中だけでも布パンツにできないか、常に検討している。また、夜間のみポータブルトイレを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉掛けや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。職員と入居者が唯一話しをゆっくり聴ける場なので大切にしている。	入浴剤を入れたり、ゆず湯にして、利用者が入浴したい・しやすい環境を作っている。毎日入浴したい方や時間等、本人の希望通り入れるよう支援している。1対1で職員とのコミュニケーションの場としても活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただいて、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は、一人ひとりの職員が把握できるようにし、臨時処方等は記入し全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力していただきながら、出来る限り出掛けるようにしている。(買い物・ドライブ・実家等)年1回の旅行も家族の協力を得ながら行っている。	ショッピングセンターへ行ったり、お芝居を見に行くなど、利用者の思いや希望を実行している。「家に帰りたい」と言う利用者の希望で、家に遊びに帰ったこともある。近所への散歩や日光浴は日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。(家族の方には、紛失等が考える為、了解していただいています。)買い物も職員付添のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とにかく広い、GH・小規模・学童が直線の平屋で繋がっている為、ドア窓を開けると心地よい風が建物全体を通って行く。壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。	温度計と湿度計のついた時計を配置し、利用者の立場に立って、定期的に寒いか暑いかを確認しながら、換気や暖房などの調整を行っている。華道を習っていた利用者に、花を生けてもらうこともある。居間の飾りつけは最小限に抑え、利用者と一緒に手作りした季節感あふれる作品を壁に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのある筆筒や鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。居室のレイアウトはできる限り家族へお願いをしている。	持参品に制限を設けておらず、利用者は好きな物や馴染みの物等を自由に持って来ている。家族と一緒に撮った写真や昔好きだった犬の写真などを壁に飾っている部屋もある。施設寄りの居室にならないよう、利用者の思いが詰まった居室空間に仕上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中にリハビリをという考えをしており、広いパブリックスペースでゆったりとした動きがとれるようにしている。お風呂について、入口と出口を設けて待つことのないようにしていくと共に清潔と不潔を区別している。		